

令和8年度 友渕中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	237	66	64	4.5	9.5	530 (531)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

全体の平均正答率では、国語は66%で大阪市平均を6ポイント、全国平均を2.1ポイント上回った。平均無解答率は、大阪市平均から0.9ポイント、全国平均から0.4ポイント下回った。数学は64%で大阪市平均を9ポイント、全国平均を7ポイント上回った。平均無解答率は、大阪市平均から1.9ポイント、全国平均から0.9ポイント下回り、積極的に回答する姿勢が見えた。

≪国語の学習指導要領の内容≫

「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は67.3%で、大阪市平均を7.8ポイント、全国平均を4.3ポイント上回った。

「話すこと・聞くこと」の平均正答率は67.1%で、大阪市平均を7.2ポイント上回り、全国平均では3.2ポイント上回った。

「書くこと」の平均正答率は69.3%で、大阪市平均を5.1ポイント、全国平均を1.9ポイント上回った。

「読むこと」の平均正答率は58.6%で、大阪市平均を2.3ポイント、全国平均を1.1ポイント上回った。

≪数学の学習指導要領の内容≫

「数と式」の平均正答率は74.1%で、大阪市平均を8ポイント、全国平均を6.3ポイント上回った。

「図形」の平均正答率は58.6%で、大阪市平均を11ポイント、全国平均を9.9ポイント上回った。

「関数」の平均正答率は60.5%で、大阪市平均を8ポイント、全国平均を5.7ポイント上回った。

「データの活用」の平均正答率は61%で、大阪市平均を10.8ポイント、全国平均を7.5ポイント上回った。

≪英語の平均 I R T スコア≫

友渕中学校の英語4技能平均 I R T スコアは530%で、大阪市平均と全国平均ともに31ポイント上回った。

今後に向けて

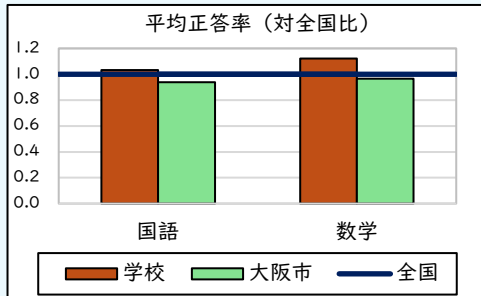
全国学力・学習状況調査の生徒質問紙結果において、「自分自身に良いところがあると感じている」の質問事項で肯定的に回答している生徒の割合は、全国と比べて4.7ポイント低くなっている。今後は生徒の自己肯定感を高めていくために、学校生活の中で友渕中学校ブランドデザイン「挑戦心・利他心・自律心」の取り組みをより一層進め、実現するために工夫していく。

また、ICT機器の活用において、PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することやインターネットを使って情報を収集すること、図やグラフ等のICTを活用してまとめる力については、大阪市平均と全国平均と比べても低くなっている。今後も、継続して学習者用端末をはじめとするICT機器の活用を学校全体で推進していく。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

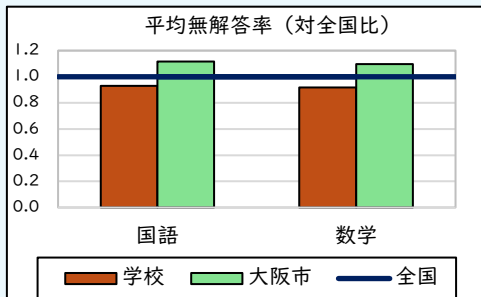
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	66	64
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



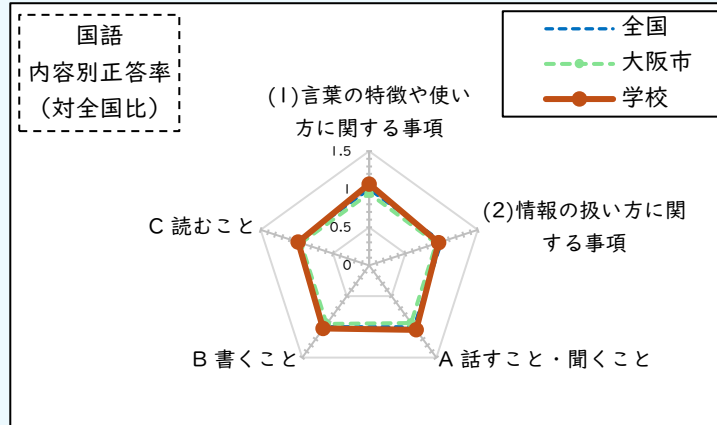
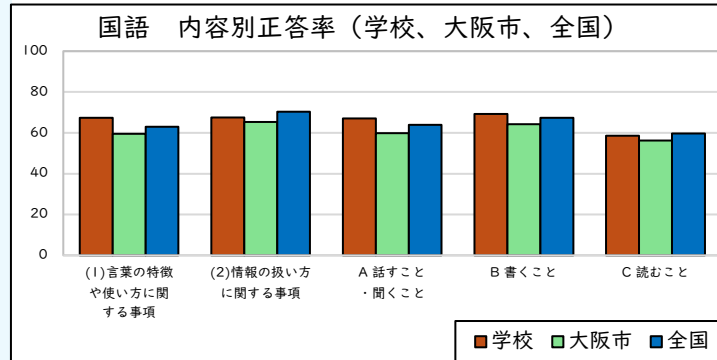
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	4.5	9.5
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



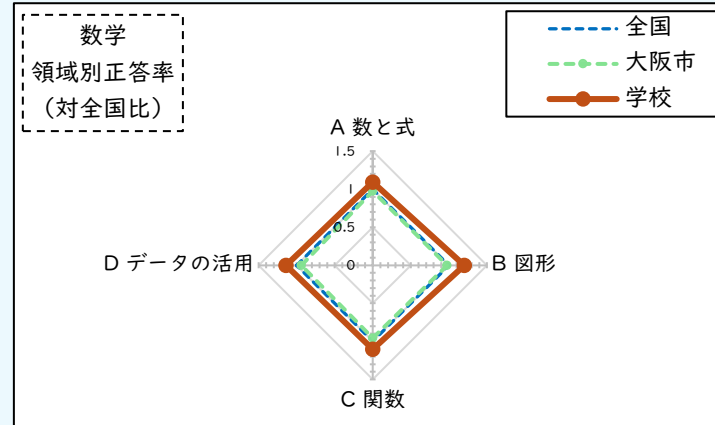
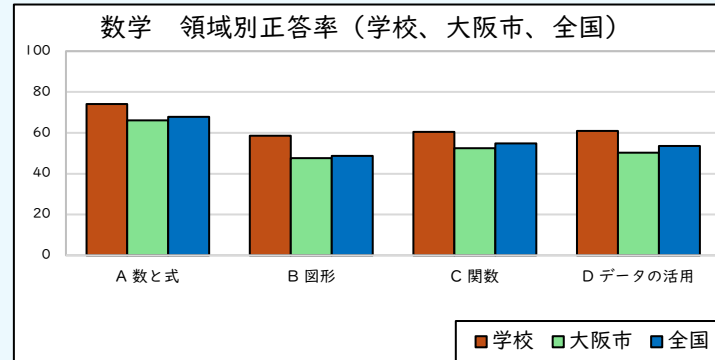
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	67.3	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	67.5	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	67.1	59.9	63.9
B 書くこと	3	69.3	64.2	67.4
C 読むこと	3	58.6	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	74.1	66.1	67.8
B 図形	4	58.6	47.6	48.7
C 関数	3	60.5	52.5	54.8
D データの活用	4	61.0	50.2	53.5



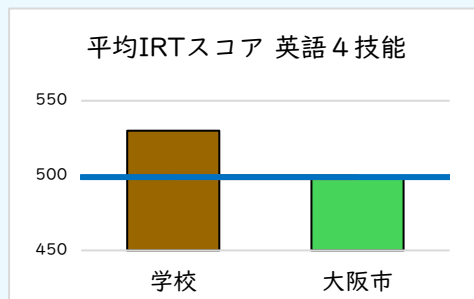
令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	530 (531)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

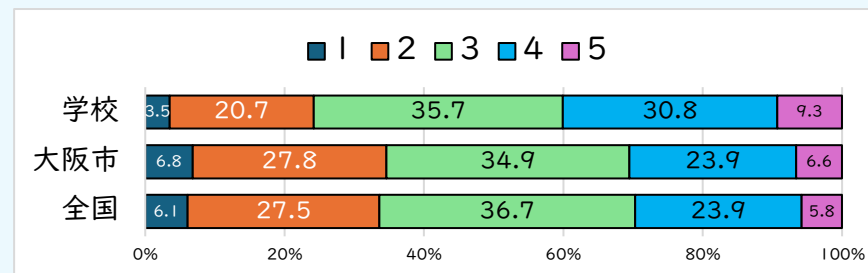
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

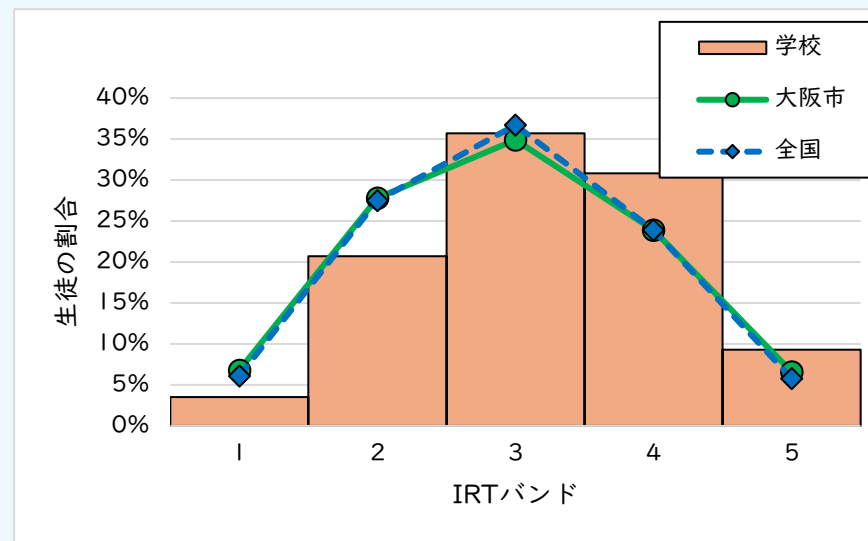
	1	2	3	4	5
学校	3.5	20.7	35.7	30.8	9.3
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

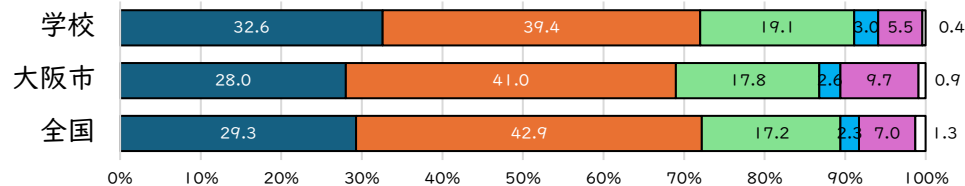
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

質問事項

(6)

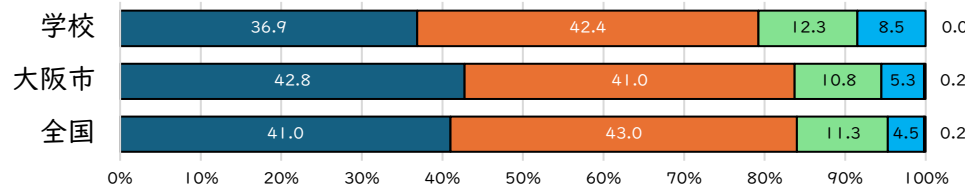
学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか



- 1 ほぼ毎日
- 2 週に1～2回
- 3 月に1～2回
- 4 年に1～2回
- 5 ほとんど、または、全くない

(8)

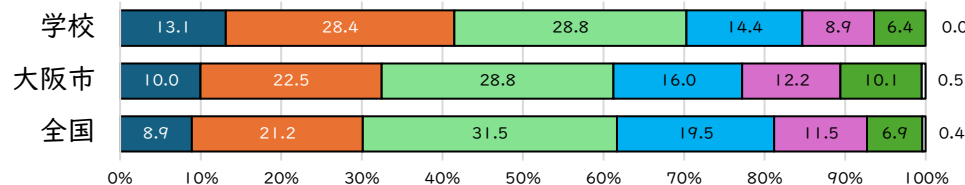
自分には、よいところがあると思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(23)

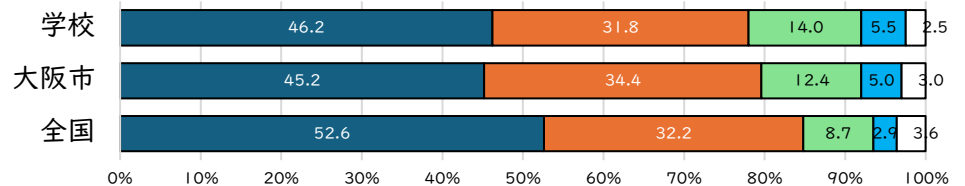
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

(36-1)

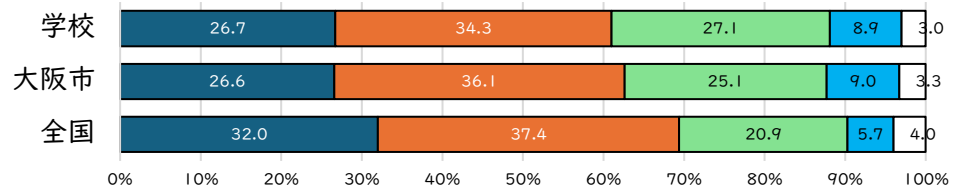
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか



- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(36-3)

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか



- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

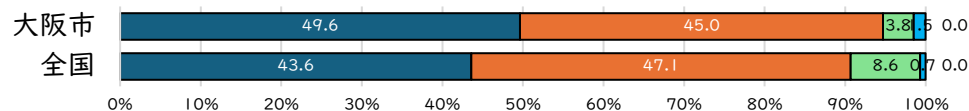
質問番号

質問事項

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 | そう思う

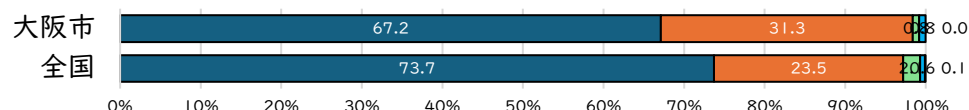


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(13)

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか

【学校の回答】 | そう思う

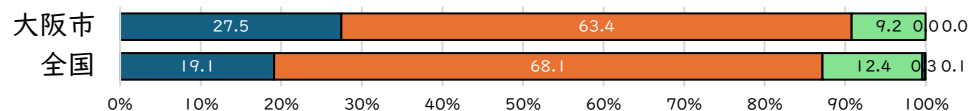


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(26)

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校の回答】 | そう思う

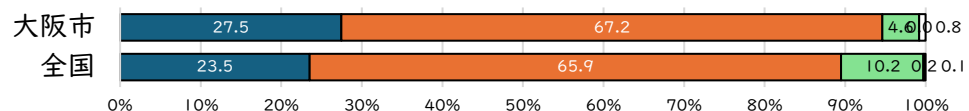


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(28)

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

【学校の回答】 | そう思う

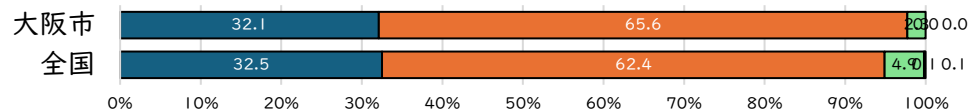


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(29)

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

【学校の回答】 | そう思う



- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない